現代的教育ニーズ取組支援プログラム

専門教育と融合した全学生へのキャリア支援
－キャリアポートフォリオと人的ネットワークの活用－

１　取組について

（１）取組の概要

本取組においては、**専門教育とキャリア教育の融合**を図るため、全学共通のキャリア教育プログラムに加えて、学内の各教育組織が専門知識の社会的意義とキャリア形成における意義とを学生に考えさせる授業をそれぞれ独自に行う。また、この目的を学生各自が達成するために、**キャリアポートフォリオ制度**を創設し、この制度の積極的な運用を通してキャリア形成に向けた**全学教職員及び学生の参加**を実現する。さらに学生が**社会との対話**を深めるために、**つくばインターンシップ・コンソーシアム**との連携によって各教育組織におけるインターンシップを活性化し、全学的に統合された実施体制を確立する。本取組を円滑に進めるために、キャリア支援室に専任教員を配置して組織を強化する。また、ＦＤの実施により全学的なキャリア教育に向けた体制を整えるとともに、他大学へもモデルケースとして提示できる充実したキャリア教育プログラムの開発と運用を行う。

（２）取組の趣旨・目的

従来の大学教育は、学生の側に学業に対する明確な目的意識が確立されていることを自明の前提とし、学問の社会的・人生的意義について改めて学生と対話することなく専門知識の注入に終始することが多かった。新卒者に対する企業の需要が途切れない間は大学生の就職は保障されており、学問の職業的有意義性は大きく問題にされることがなかったが、いわゆるバブル崩壊後の雇用調整期間に企業の新卒者採用方針が学歴重視から人物本意へと変わったことにより、大学生の就職活動において学業成績や大学推薦の占める重要性は大きく減少した。そのため、学生たちは明確な指針を与えられないままに長期間の就職活動に手探りで取り組まざるを得ず、結果として大学における専門教育の職業的意義を見失いがちである。このような傾向を放置すると、今後大学で学ぼうとする若者たちは学業に真摯に取り組む意欲を失い、基礎学力の涵養と人間形成の機会を失うことになる。人間形成としての高等教育の本来的意義を回復し、アイデンティティの確立した社会的人材を育成することは緊急の課題である。本取組は以上を背景として申請するものである。

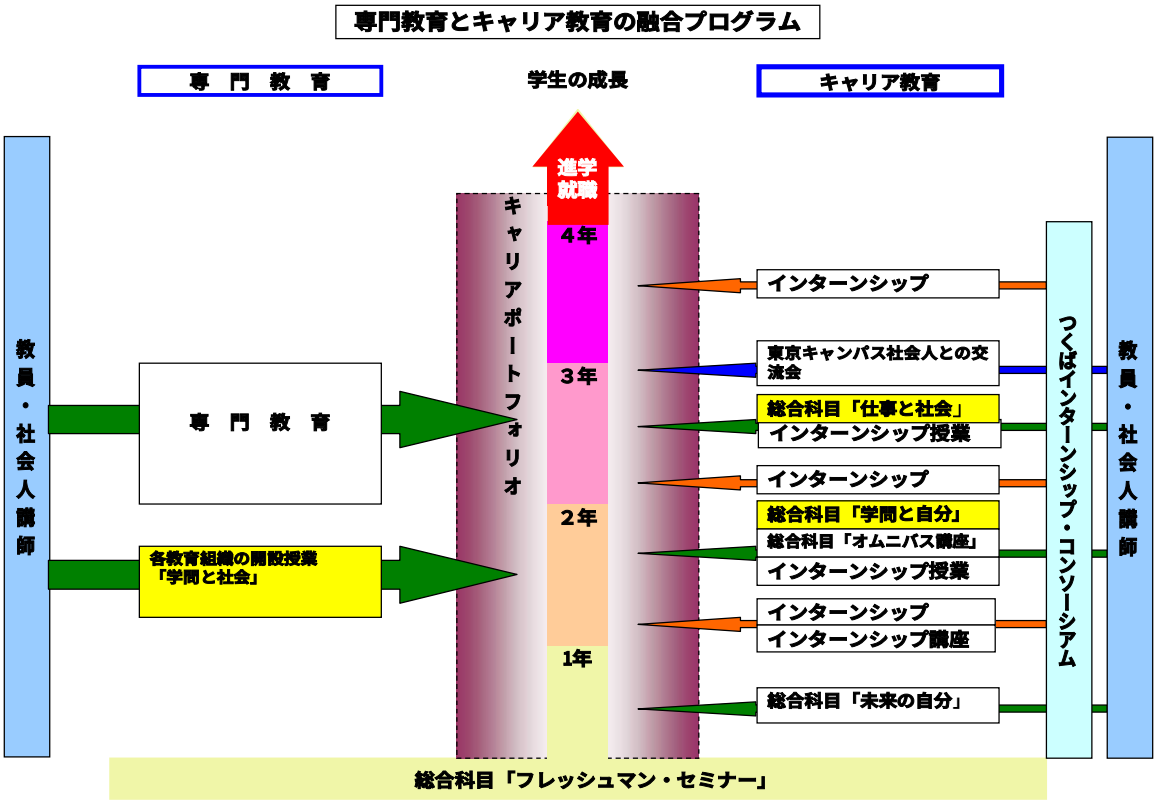
取組の教育目標

本取組の目標は、専門分野を持つとともに、その専門分野を社会の中に、また自らのキャリア（即ち職業を主軸とする人生そのもの）の中に位置づけるための広い視野を持った人材の育成である。そのために各教育組織における専門教育にキャリア教育の要素を取り入れる一方、各学年段階に対応した全学共通のキャリア教育プログラムを開発する。

取組を通して求める成果

本取組がねらいとする教育効果は、一人一人の学生が将来を見据えた上で専門分野の学修への意欲を新たにし、自らのキャリア形成への自信を深めることである。さらに本取組を通して、教職員の側にキャリア教育に関する意識改革をおこすことも期待される。

（３）取組の実施体制等（具体的な実施能力）



①教育課程・教育方法

一年次

（ア）筑波大学にはクラス担任制度があり、各クラス担任教員により全新入生に対する必修科目として**「フレッシュマンセミナー」**を実施して、大学生活への導入および各専門分野へのガイダンスを行っている（様式５資料１参照）。本取組ではこのフレッシュマンセミナーを本学学生のキャリア形成支援の始まりと位置づけ、その時間帯の一部を活用して、学生各自に入学の意義や将来の進路について考えさせるような教育活動を行う。また、そこでのキャリア教育に対するクラス担任教員の役割を強化する。

（イ）平成１６年度の試行を経て、平成１７年度よりキャリア支援室の開設による**総合科目「未来の自分－自己発見－」**（様式５資料２参照）というワークショップ型の授業を、非常勤講師の担当により全学学生を対象として実施しており、学生から高い評価を得ている。この授業を一年次生に対する科目として継続し、学生各自に大学で学ぶ意義を再確認させ、二年次から本格化する専門分野の学修と将来のキャリア形成に対する展望を得させる。

二年次

（ウ）キャリア支援室は、**総合科目「学問と自分」**というワークショップ型の授業を、全学の二年次生を主な対象として新規に開設する。この科目の受講生は、所属教育組織の教員、上級生、および社会人へのインタビュー等を通して自らのキャリアの中に各自の専門分野を位置づけるとともに、専門分野の社会的な意義を考察する。またその結果を異なる学類・専門学群の学生が相互に発表し合うことにより、他分野への理解と総合的な視野を得るようにする。また、この科目と連動して本学卒業生による**総合科目「オムニバス講座」**（様式５資料３参照）を継続し、学生が各自の専門分野の社会性を自覚するきっかけとする。

（エ）専門教育にキャリア教育を導入するために各学類・専門学群が独自に**「学問と社会」**という授業科目を開設して、学生が自らの専門分野の歴史的背景とともに現代社会における意義を知りつつ分野の全体像を描くことができるようにし、専門家としての社会的視野を養う。ただし、同趣旨の授業をすでに開設している学類・専門学群もあるので、そこでは本取組の目的に添うように授業内容の調整を行う。

（オ）学生が職業体験を通じて専門分野の学修への動機付けが得られるよう、インターンシップを推進する。現在筑波大学では、大学院を含めて約４０の教育組織が正課の授業科目としてインターンシップを取り入れているが、さらにその活性化を図るために学内のインターンシップ科目担当者の連絡体制を確立する。

　一方、筑波大学は平成１８年１月に、つくば地域の企業における筑波大学生のインターンシップ活動を活性化するための仲介事業**「つくばインターンシップ・コンソーシアム」**（以下「ＴＩＣ」と記す）を、社会貢献プロジェクトの一つとして発足させた（様式５資料４参照）。地元企業、つくば市及び茨城県のＴＩＣに対する関心は高く、着実に協力関係を築きつつあるが、学生に対する広報の不足からか、多くのインターン志願者を得るには至っていない。そこで本取組の一つとして、企業での仕事の実情、ビジネスマナー等を学生に伝える**「インターンシップ講座」**を実施し、学生のインターンシップに対する意欲を高める。さらにＴＩＣを通してインターンシップ活動を行った学生に対して所属教育組織が審査の上で単位を認定することにより、授業としてのインターンシップの活性化を図る。

三年次以降

（カ）キャリア支援室は、**総合科目「仕事と社会」**を新規に開設する。この授業では、主として企業人を講師として招き、会社組織の概要、労働者を取り囲む環境、様々な職業人のキャリアパスの事例等を学び、学生が進路選択に自覚的に取り組めるようにする。

（キ）上記の授業をより効果的にするため、平成１６年度より実施している**「東京キャンパスの夜間大学院に所属する社会人大学院生と筑波キャンパスの学生との交流会」**（様式５資料５参照）を継続する。大学院生であっても、日中は企業の中核で活躍する有職者であり、彼らとの対話の中で、生涯キャリア形成に対する理解を得させる効果が期待される。

教育方法

本取組では一貫して、学生各自の「気づき」を促すことによって、コミュニケーション能力、自己認識力、将来設計能力、情報探索・評価能力、意思決定能力、人間関係形成力等、社会人としての能力態度の育成を目指す方法を採用する。具体的には、

1）キャリア教育関連の授業では「グループワーク」と「振り返りの宿題」を基本形とした方法を用いる。これらの授業では、単独の教員が担当するのでなく、社会人との協力を含むチーム・ティーチングを基本とする。またインターンシップや社会人・教員へのインタビュー等によるフィールドワークを行う。

2）キャリア教育プログラムは年次進行と学生の発達を考慮して系統的に構成し、専門教科との関連付けを工夫する。

3）以上を通じた経験からの気づきを学生各自が集約するために、キャリアポートフォリオを用いる。キャリアポートフォリオは学生が大学生活の記録を綴じ込むためのファイルであって、入学時に全学生に配付する。キャリアポートフォリオの構成と主な記入事項は以下のとおりである。

キャリアポートフォリオの構成

（A）新入生へのメッセージや「キャリア」概念の解説等を含む読み物の部分

（B）生活記録の綴じ込み、整理する部分

①学修関連：学期ごとの履修記録、年度初めの抱負・計画、年度末の振り返り、影響を受けた授業・教員等

②キャリア関連：「未来の自分－自己発見－」などキャリア関連科目、インターンシップ、担任教員との対話、就職相談における対話などから得たもの

③生活関連：ボランティア等社会活動の経験から得たこと、その他生活上の発見等、個人的に残しておきたい出来事

（C）就職・進学への準備

①エントリーシート

②研究題目・進学計画等

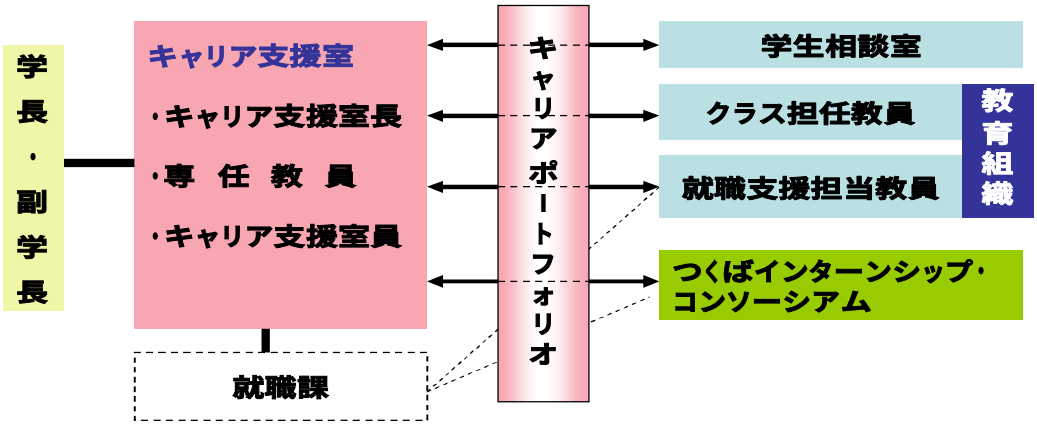
キャリアポートフォリオは学生が自発的に記入し、役立てるよう指導する。さらにフレッシュマンセミナーやキャリア支援室開設授業等、全学対象のキャリア教育プログラムの中で教材として積極的に用いる。特にクラス担任教員が活用することにより、フレッシュマンセミナーの運営が体系化され、キャリア教育への全学教職員の参加、意識改革につながる。

ＦＤ（教職員研修）

本取組は全学の教職員の参加を原則としているが、これはそれぞれの専門の立場からキャリア教育に携わる教職員のネットワークを学内に構築するという意味である。そのためにはキャリア教育の意義および取組の目的について様々な形で学内に周知

して、理念の共有を図らなければならない。また、上記のキャリアポートフォリオについては、その使用方法を特にクラス担任教員に対して繰り返し周知する必要がある。これらの目的のための各種のＦＤを行い、取組を学内に浸透させる。さらに産業界・教育界の代表者を招いた対話集会を開催し、大学教育に対する社会の期待・要請を把握する。

②取組を実施するための組織と体制



（ア）本取組は学生生活担当副学長を取組担当者として、その下で専任の**キャリア支援室長**が、取組全体にわたる企画・立案を行う。ただし、各学類・専門学群へのキャリア教育の導入にあたっては、当該教育組織と緊密な調整を行い、また教育担当副学長および教育企画室と協議しつつ立案を行う。

（イ）キャリアカウンセリングの資格と経験のある**任期付き専任教員**および事務補助員を雇用する。このうち専任教員は主として次の役割を担う。

①キャリア支援室が開設するワークショップ型授業「未来の自分－自己発見」（継続）および「学問と自分」（新規）の具体的な内容を立案の上、担当すること。

②上記授業の受講者の増加に対応するため、アシスタントを育成すること。

③キャリアポートフォリオの企画・作成の中心となること。

④キャリアポートフォリオを用いて学生の個別キャリアカウンセリングにあたること。

（ウ）キャリア支援室は**学生相談室**と連携してキャリア形成に困難を持つ学生に関する情報を収集し、プログラムの改善に活かす。

（エ）各学類・専門学群の**クラス担任教員**は、フレッシュマンセミナーを通じてキャリアポートフォリオの趣旨を新入生に説明し、以後も継続的にその使用を学生に促す。クラス担任教員は学修・進路相談の際にキャリアポートフォリオを用いることにより当該学生のキャリア形成を支援する。クラス担任教員はさらに各学類・専門学群における授業「学問と社会」を担当または補助する。

（オ）各教育組織の**就職支援担当教員**はキャリア支援室が実施する各種のキャリア支援活動の学内広報に協力する。またキャリア支援室が本取組に関して主催するＦＤの学内広報にあたるとともに、積極的に参加する。

（カ）インターンシップ講座の実施にあたって、キャリア支援室は**ＴＩＣ**と連携する。

また全学のインターンシップ授業担当者の連絡会議を設置し、インターンシップ実施上の情報交換を行うとともに、特につくば地域の企業へのインターン派遣についてはＴＩＣを通じて窓口を一本化するなど、調整を行う。

③独創性・新規性

専門教育とキャリア教育の融合を目指した全学共通の「学問と自分」、「仕事と社会」、各教育組織における「学問と社会」等の授業を開設し、それらの学修体験を学生各自がキャリアポートフォリオに集約する方式は新規の試みである。また、本取組は現存のクラス制度、就職支援担当教員会議、東京キャンパスの社会人大学院生、学外の人的ネットワーク（地元企業、自治体、卒業生）等、筑波大学のすべてのリソースを学生のキャリア形成支援に向けて活用するところに独自性がある。

（４）評価体制等

取組に対する評価は取組の学内への浸透、取組の教育的効果、教職員の意識変化の３つの面に対して行う。

（ア）取組の進捗と浸透の状況、特にキャリアポートフォリオの使用状況はキャリア支援室が教育企画室と連携して年次ごとに自己評価を行う。また教職員からの意見聴取により、取組を通じた教職員の意識変化も同時に評価する。

（イ）取組が求める教育的効果は前述した通り、学生各自における意欲の向上とキャリア形成に対する自信の深まりであり、客観的な数値評価にそぐわないものである。そこで、質問項目を適切に設定したアンケート調査を、キャリアポートフォリオの継続的使用者やキャリア支援室開設授業の受講者など様々な集団の学生に対して行うことによって、学生の主観における本取組の成果・効果を測定する。調査手法の立案は学内の教育学・心理学の専門家が中核となって行う。

（ウ）学生・教職員との意見交換会を開催し、取組に対する全般的な意見聴取を行う。

（エ）外部有識者、企業人による学外評価委員会を設置し、上記の方法で作成した評価資料に基づいて総合的な評価を行う。

（５）教育改革への有効性

①教育課程・教育方法の創意工夫

フレッシュマンセミナーの活用、キャリア支援室開設のワークショップ型授業等の工夫を通して、教員と学生および学生相互の対話の機会が増える。また、学生各自が専門領域の全体を見渡しつつ自らのキャリア形成と関連させながら学修計画を立てるようになり、単位をかき集めるだけでない総合的な教育効果が得られる。一方キャリアポートフォリオの活用により深い自己理解に達した学生が、インターンシップ等により職業観を育成することで、自覚の高い社会人を輩出し、大学教育に対する社会の評価が向上する。特にキャリアポートフォリオ制度の運用は他大学へのモデルケースになる。

②実施体制の創意工夫

本取組の実施体制は必然的に学内外の人的ネットワークの構築・強化をともなう。従って取組を通して大学と社会との対話と協力体制を築くことができ、社会のニーズに応えたカリキュラム作りが可能となる。また全教職員が専門分野や役割分担の壁を越えて学生の教育のあり方、教育と社会の接続について議論し、共有の理念を作り上げていくことで大学の組織としての一体性が強化される。さらに教員が短期的成果のみを求める狭義の研究志向から脱却し、次世代の育成や社会との対話に力を注ぐようになる。

③取組の教育的成果

（ア）取組の結果、高い意欲をもって専門知識を学び、自己のキャリア形成に対する自信を深めた学生が育成される。

（イ）本取組の成果に関する情報を中等教育段階へ提供し、高等学校のキャリア教育の推進と進路指導の改善に貢献できる。

（ウ）本取組によるキャリア教育を受けた学生が大学院に進むことによって、固有の専門領域をもちながら他分野への理解も持ち、社会の課題に柔軟に応える研究者・高度専門職業人が輩出する。

２　取組の実施計画等について

取組は３年間の計画で行い、そのうち初年度は実施体制の整備と実施に向けての詳細な準備及び従来のキャリア教育活動の継続と強化にあて、２年目から新規の取組を実施する。以下に各年次の実施計画を体制の整備、具体的な教育活動、評価活動等に分けて記す。

初年度前半（４月～９月）

体制の整備

（１）キャリア支援室と教育企画室が、各学類・専門学群と協議して、各教育組織における新規開設授業「学問と社会」のあり方について検討する。

（２）「インターンシップ授業担当者連絡会議」を設置して、インターンシップ授業の現状について情報交換を行い、またＴＩＣを通じてのインターンシップ仲介窓口の一本化に向けて調整を行う。当該連絡会議の議長はキャリア支援室長が務める。

（３）インターンシップ講座の内容を、キャリア支援室およびＴＩＣ事務局において検討する。

教育活動

（４）各学類・専門学群はフレッシュマンセミナーの時間帯に、学生が自分の将来やキャリア形成を考えるための企画を立案・実施する。

（５）本取組の趣旨と実施計画について周知するための学内フォーラムを開催する。

評価活動

（６）キャリア支援室において、取組に対する評価方法、評価日程を検討する。

後半（１０月～３月）
体制の整備
（７）キャリア支援室の専任教員を中心として、キャリアポートフォリオの作成委員会を発足させ、内容の検討作業を行い、試作版を作成する。なお、キャリアポートフォリオのデザインについては、民間の協力者を委員に加える。
（８）同じく専任教員を中心として、キャリア支援室開設授業「学問と自分」、「仕事と社会」の内容を検討し、シラバスを作成する。
教育活動
（９）従来の活動の継続として、卒業生による「オムニバス講座」、大学院生のための「逆求人セミナー」及び「社会人大学院生との交流会」を実施する。「オムニバス講座」の受講者は約２００名と予想される。
（１０）インターンシップ講座を実施する。
（１１）専任教員の担当で総合科目「未来の自分－自己発見」を実施し、キャリアポートフォリオの試作版を使用する。試作版の使用を経て、キャリアポートフォリオの最終版を確定、その後作製業者を選定し、発注する。
（１２）キャリアポートフォリオの趣旨と使用法を周知するためのＦＤを開催する。

２年目
教育活動
（１）キャリアポートフォリオを約２０００人の新入生全員に配布し、新入生オリエンテーションで趣旨を説明する。フレッシュマンセミナーでの使用を開始する。またキャリアポートフォリオは希望する上級生にも配付して普及に努める。
（２）キャリア支援室開設授業「学問と自分」、「仕事と社会」（新規）および「未来の自分」（継続）を実施し、新入生以外の受講生にもキャリアポートフォリオを配布して使用する。それぞれの授業の受講者は約２００名と予想される。
（３）その他、初年度の活動を継続する。（オムニバス講座、逆求人セミナー、社会人大学院生との交流会、インターンシップ講座）
（４）準備の整った教育組織から順次に新規開設授業「学問と社会」を実施する。
評価活動
（５）年度末にキャリアポートフォリオの使用状況を含めて、取組の学内への浸透状況を調査する。また調査結果を踏まえて、キャリア支援室が自己評価を行い、改善を検討する。
（６）取組の教育効果として学生にどのような意欲の変化やキャリア形成への自信の深まりがあったかを調査する方法を、専門家を中心とするワーキンググループを設置して検討する。

３年目
体制の整備
（１）各教育組織における新規開設授業「学問と社会」のあり方について最終的にまとめ、シラバスを作成する。

教育活動

（２）２年目に引き続き、キャリアポートフォリオを新入生全員に配布し、新入生オリエンテーションで趣旨を説明する。希望する上級生にも配付して普及に努める。

（３）その他、２年目の活動を継続する。

評価活動

（４）取組の浸透状況に加えて、取組の教育効果を調査する。調査結果のとりまとめと、キャリア支援室による分析・自己評価を行う。

（５）外部有識者、企業人による学外評価委員会を設置し、上記の方法で作成した評価資料に基づいて総合的な評価を行う。

（６）評価結果に基づいて、支援プログラム終了後のキャリア教育プログラムの開発と実施体制のさらなる整備に着手する。

（７）国内外の諸大学の事例と本取組との比較検討のため、実地調査を行う。

（８）大学関係者を主な対象とするフォーラムを開催し、本取組を他大学に提供できるモデルケースとして報告する。

（９）受験生に対する大学説明会で本取組の広報を行う。また高校生とその保護者および中等教育関係者に向けたパンフレットの作成等を通じて、本取組の成果を報告するとともに、キャリア教育に継続的に取り組む筑波大学の姿勢を明確にする。

本取組に直接参加する教職員は、約１００名のクラス担任教員を始めとして、キャリア支援室及び教育企画室の構成員、就職支援担当教員、インターンシップ科目担当教員、各学類・専門学群のカリキュラム担当教員等合計約３００名である。また２、３年目には新入生及び全学共通のキャリア教育科目受講者の合計約２８００名にキャリアポートフォリオを配付する。

3「データ、資料等」

資料１　総合科目「フレッシュマンセミナー」

「筑波大学平成 17 年度開設授業一覧」より

(フレッシュマン・セミナー)

科目番号	授業科目	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限 教室	担当教員	授業概要	備考
1301 102	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	金5 1B301	檜垣良成	大学生活を有意義に送るための基礎づくりをする。と同時に，人文学類における各主専攻分野の学習と研究について，解説を指導を行う。	人文１クラス対象
1301 202	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	金5 1B304	浪川健治	〃	人文２クラス対象
1301 302	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	金5 1B201	常木晃	〃	人文３クラス対象
1301 402	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	金5 1B204	大倉浩	〃	人文４クラス対象
1301 502	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	金5 1B401	山田博志	〃	人文５クラス対象
1301 602	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	金5 1B402	久保田章	〃	人文６クラス対象
1302 102	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	水4 1B202	黄順姫	社会科学の特質と方法につき検討する。	社会１クラス対象
1302 202	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	水4 1B203	岡上雅美	〃	社会２クラス対象
1302 302	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	水4 1B302	竹中佳彦	〃	社会３クラス対象
1302 402	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	水4 1B303	福住多一	〃	社会４クラス対象
1303 102	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	金6 1E101	田崎博之	クラス担任との話し合いを通じて，自然科学への理解を深める。	自然１クラス対象
1303 202	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	金6 1E107	木下保	〃	自然２クラス対象
1303 302	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	金6 1E201	石塚成人	〃	自然３クラス対象
1303 402	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	金6 1E304	神田晶申	〃	自然４クラス対象
1303 502	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	金6 1E307	齋藤一弥	〃	自然５クラス対象
1303 602	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	金6 1E310	西村賢宣	〃	自然６クラス対象
1303 702	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	金6 1E503	興野純	〃	自然７クラス対象
1303 802	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	金6 1E506	浅沼順	〃	自然８クラス対象
1304 102	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	金5 2A305	松本肇	これからの大学における学問との取り組み方，生活の仕方などについて考える。	比較１クラス対象
1304 202	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	金5 2A306	畔上泰治	〃	比較２クラス対象
1304 302	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	金5 2D305	加藤百合	〃	比較３クラス対象
1304 402	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	金5 2D306	宮崎和夫	〃	比較４クラス対象
1305 102	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	木5 2G204	清登典子	教室内外の活動を通して，大学生活・学問の進めかた等について，相互の理解を深める。	日日１クラス対象
1305 202	フレッシュマン・セミナー	1	1	1	木5 2G304	宮本エジソン	〃	日日２クラス対象

資料２　総合科目「未来の自分」

「筑波大学平成 17 年度総合科目シラバス」より

「総合科目　シラバス」

未来の自分－自己発見－

整理番号／146　　分野：複合

英訳名	Future one: Self-discovery	責任者（成績報告者）	南 剛将
開設学群	キャリア支援室	研究室	自然系学系棟Ｂ624
曜時限	３学期　月曜６時限	オフィスアワー	学群・学生部就職課
単位数	１　単位		
標準履修年次	１・２ 年		

重視する視点			
方針	社会的教養	○
	分野紹介	
	入門	
内容	歴史／経緯	
	人物	○
	問題／問題解決	
	技法	○
	学際性	

授業形態・学習方法		受講して得られる能力	
講義	○	知識	
演習	○	スキル	○
実習		分析力	○
議論	○	構成力	○
発表	○	考察力	
		発表力	○

目的・特徴

個々の学生が，人生のなかでも重要な期間である大学での生活を，積極的かつ有意義に過ごし，その後の人生設計（キャリア・デザイン）の準備に不可欠の基礎作りをすることを目的とする。とくに，自分の人生の主人は自分であることを再認識し，「自己に気付く力」を発展させること，および社会の中に生きていることを再確認し，社会と関わる力，変化する社会の中で主体的に生きるために必要な「変化対応力」を発展させることを目指す。

教材・参考文献

教材や参考文献は，その都度授業で提示する。

事前・事後学習　　特になし

受講学生に望むこと　目的意識をもって，前向きに参加してほしい。

成績評価方法　　出席日数と最終回に提出するレポートによる総合評価

各週授業計画

学期	週	月日	講義題目	講義担当者	所属	講義概要
第３学期	1	１２月　５日	オリエンテーション	田中勝男	田中会計事務所	大学生活をふりかえり，キャリアデザインを描く準備をする
	2	１２月１２日	自分の大学生活の点検	田中勝男	田中会計事務所	高校から大学への移行期を振り返って現在を考える－キャンパス内からキャンパス外まで－
	3	１２月１９日	専門領域とキャリア	田中勝男	田中会計事務所	情報探索，設計能力を整理，発見する
	4	１月１６日	改めて自分を再点検	田中勝男 杉江　征	田中会計事務所 人間総合科学研究科	ＶＰＩを通して，これまでの自分を再点検・自覚する
	5	１月２３日	過去の自分と未来の自分	田中勝男 杉江　征	田中会計事務所 人間総合科学研究科	ＶＰＩを使って，過去の自分と未来の自分を考える変化への対応力を高める
	6	１月３０日	現在の問題や課題の解決	田中勝男	田中会計事務所	現在の問題を発見し，課題の抽出から解決能力を身につける
	7	２月　６日	大学生活を計画する（１）	田中勝男	田中会計事務所	大学生活を最大限に生かす意味を考える
	8	２月１３日	大学生活を計画する（２）	田中勝男	田中会計事務所	上級生訪問：上級生から学ぶ筑波大学での生活を積極的に生かすには情報収集能力を促進
	9	２月２０日	上級生訪問発表	田中勝男	田中会計事務所	情報のまとめ能力と各々のプレゼンテーション能力を身につける
	10	２月２７日	上級生になる準備と課題	田中勝男	田中会計事務所	コースを振り返ってまとめ，将来展望・未来設計能力を促進させる
	11	３月　６日	期末試験	田中勝男	田中会計事務所	

資料３　総合科目「卒業生によるオムニバス講座」

「筑波大学平成 17 年度総合科目シラバス」より

卒業生によるオムニバス講座

平成 16 年度に引き続き，下記のとおり総合科目を開設します。授業科目計画の詳細については，決定次第，各支援室に掲示します。

授業科目名	「卒業生によるオムニバス講座 2005（社会人としていかに生きるか）」				
単位数	1 単位	実施学期・曜時限	2 学期　木曜 6 時限	科目番号	1119 011
担当教員	本学卒業生であり，社会人として社会で活躍している者				
授業内容	「卒業生の社会人としての経験を通じて，本学で学んだことがどのように役立っているか，また，社会人としていかに生きるか」等について，講義・演習形式等で行う。				
開設母体	総合科目編成室				

平成 16 年度実施例（参考）

週	講義題目	担当者	所属	講義概要
1	大学で学んだこと－「役に立つ」ではなく「役に立てる」	（第一学群） 畑中泰道 （第一学群 人文学類） 平成 3 年 3 月卒業	インターネット大学院予備校院試塾代表	私が大学で学んだ言語学は、一見「役に立たない」学問だと考えられている。しかし、そもそも大学で学んだことがそのまま役に立つという場面はむしろ少ないのではないか。大切なことは学ぶという「過程」から自分なりに何かを学びとり、積極的に「役に立てる」ことである。自身のこれまでの歩みから、大学の学問の「役立てかた」を示してみようと思う。
2	ＮＰＯ（非営利法人）への招待	（第二学群） 片岡慎泰 （第二学群 比較文化学類） 昭和 62 年 3 月卒業	昭和女子大学総合教育センター講師	大学及び大学院でゲーテ研究に取り組み、現在大学教員として教育活動に従事するとともに、ＮＰＯ境川緑のルネッサンス事務局長としてコミュニティ活動に参加している経緯を説明することを通じて、社会への関わり方について述べたい。
3	時代を変えたい！！最先端半導体レーザ技術開発と次世代ＤＶＤ	（第三学群） 小野村正明 （第三学群 基礎工学類） 昭和 60 年 3 月卒業	(株)東芝セミコンダクター社ディスクリート半導体事業部光半導体製品技術部	新・三種の新器と呼ばれるデジタルカメラ、ＤＶＤレコーダ、薄型テレビが急成長している。ますます情報量が増えつつある今日、ＤＶＤの次世代開発競争に世間が注目している。次世代ＤＶＤの鍵を握るのは青色半導体レーザにある。最先端技術である青色レーザと、東芝レーザと、東芝等が提案しているＨＤ ＤＶＤともうひとつの規格ブルーレイを解説する。また、熾烈な競争の中で挫折を乗り越えトップレベルの青色レーザを発表できるまでに育てた研究者としての情熱とハリウッドを巻き込んで規格化を競う次世代ＤＶＤ開発に参画した仕事の面白さを紹介し、研究者としての自立を促したい。
4	環境問題への取り組み－公害の教訓から今日の化学物質対策まで－	（医学専門学群） 三宅智 昭和 59 年 3 月卒業	環境省環境保健部環境リスク評価室長	厚生省医系技官として、環境分野に２度、携わった経験から、水俣病を中心とした公害問題の教訓と、現在取り組んでいる茨城県神栖町などでの旧軍毒ガスによると思われる環境汚染問題への取り組みや、化学物質と環境問題などへの今日的課題について、概説する。
5	サッカーの魅力	（体育専門学群） 木山隆之 平成 6 年 3 月卒業	筑波大学体育センター技官	度重なるケガを乗り越えつつ、有能なサッカー選手として最近まで現役のプロ・サッカー選手として活躍を続けてきた経験、大学院でのサッカーに関する研究、そしてその成果を生かしての本学サッカー部監督として活動の現状や今後の課題等について講義する。
6	環境をつくる－空間・時間・人間の環境デザイン－	（芸術専門学群） 坂口次郎 平成 5 年 3 月卒業	都市基盤整備公団土地有効利用事業本部	住宅、公園、都市など、私たちを取り巻く環境をつくることは魅力に満ちている。その過程には様々な段階があり、様々人々が駅伝のようにタスキをつなぎながら取り組んでいくクリエイティブな協働作業である。都市基盤整備公団事業における住宅地や公園の計画、設計、及びコミュニティづくりを通して、環境をつくる魅力について紹介する。
7	法は知れば知るほどおもしろい	（第一学群） 石田清彦 （第一学群 社会学類） 昭和 56 年 3 月卒業	東海大学法学部教授・弁護士	法について勉強をしていくと、ある時突然視界が開けます。それまでそれぞれの法領域で得た別々の知識が線でつながり始め、いろいろな解決方法が浮かぶようになってきます。 私は現在研究者であると同時に実務にも携わり、それぞれの利点を生かしながらバランスのよい活動をしています。ロースクールも始まり、いろいろな領域の知識を持った方が弁護士になる時代になりました。文系の方のみならず理系の方にも、法の楽しさをお話したいと思っています。
8	市民の参加と協働による持続可能な社会づくり	（第二学群） 小西由希子 （第二学群 農林学類） 昭和 56 年 3 月卒業	千葉市議会議員	小西氏は 3 人の子育てを通して環境問題への関心を深め、農林学類で学んだことを発展させて修士号を取得した。地域社会に偏在する課題は自らが解決の主体にならなくてはいけないとの理念のもと、市民参加の機会・場であるちば環境情報センターを設立し、地域社会の各構成員が身近な活動を通じて環境問題などにアプローチするしくみを作り、実践してきた。本講義では、大学での学習からＮＰＯ法人取得に至る過程や理念を、環境問題という課題と市民参加という手法から話題提供し、持続可能な社会づくりについて講述する。
9	中小企業の経営と税金	（第三学群） 宇留野秀一 （第三学群 社会工学類） 平成 5 年 3 月卒業	エスティコンサルティング株式会社	会社を経営する上で避けて通ることができないことの一つとして、税金の問題があります。 どのような税金がどのようにかかるのか？会計事務所の職員として中小企業で体験した会社経営の喜怒哀楽を交えて紹介します。
10		（予備日）		
11		（期末試験）		

資料４　つくばインターンシップ・コンソーシアム概要

「平成１７年度　ＴＩＣパンフレット」より

〔事業内容〕

①インターンシップに関するポータルサイトの運営及び学生に対するインターンシップ参加促進活動を行います。

②インターンシップ中における学生のサポートを行い、企業からのフィードバックに努め、インターンシッププログラムの充実を行います。

〔学生に対して〕

インターンシップは、学生に就労体験の機会を与え、就職のミスマッチを減らす方法として、近年多くの企業が取り入れています。つくば市内においても、人材育成の意識が高い経営者は多く、いくつかの企業ではインターンシップの機会を提供しています。しかし、企業と学生との接点は限られているため、学生には十分な情報がなく、結果としてインターンシップを希望する学生の多くは、多大な時間的・金銭的負担を強いられながら、東京へ通っている現状があります。

つくば市内でインターンシップに参加することは、大幅な負担の軽減につながり、また就業体験を積むことで、主体的に働く意義を見出す機会となるとともに。将来つくば市で働くという選択肢の提供に寄与します。

活動内容

①つくば市内のより多くの学生に、高度な就業体験を得られるよう支援し、市内でのインターンシップに参加する機会を提供します。

②インターンシップに参加するための事前指導を行います。

③長期的かつ実践的なインターンシッププログラムを構築、提供します。

〔企業に対して〕

つくば市内の企業の発展は、優秀な学生の採用により実現されると考えますが、一方具体な採用に踏み込めない状況もあると考えます。このインターンシップを活用することで、筑波大学で得た高度な知識が還元される機会が増え、その効果や実績から採用に際して学生とのミスマッチのリスクを減らすことができます。さらに企業が学生に情報を提供し、優秀な人材を確保することで学生が潜在的戦力となり得ると考えます。

筑波大学生が就職によりつくば市に定着することで企業の発展が期待され、つくば市の地域活性化の原動力となると考えられます。

活動内容

①学生への情報提供・自社アピールができる機会を提供します。

②学生と企業のスムーズなマッチングのサポートを行います。

③受入企業のインターンシッププログラム構築のサポートを行います。

日刊工業新聞　平成 18 年 1 月 18 日

筑波大が窓口一本化

地元企業との運営密に

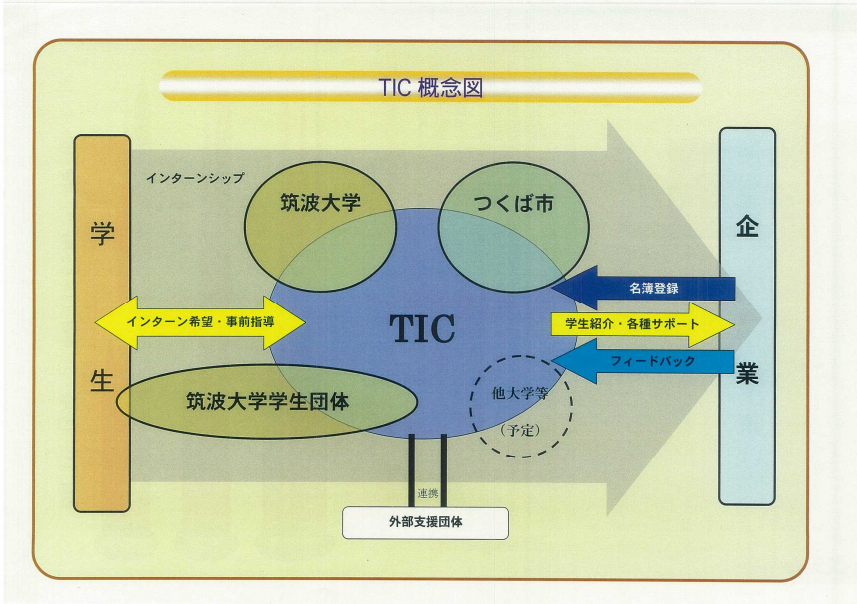
インターンシップ

【水戸】筑波大学はインターンシップに関するポータルサイトの運営、学生に対する参加促進活動、事前指導、学生の受け入れ、インターンシップ中の学生支援をワンストップで行う。企業から情報を収集し、制度の充実を図る。

TICはインターンシップを希望する企業の提供やマッチング、インターンシッププログラム構築のサポートを行う。

筑波大のインターンシップは地元企業との結びつきが少ないため、受け入れ先の多くが東京の企業に偏っており、卒業生の地元への定着率も低いのが現状。TICは設立によって、地元企業へのメリットとなる形を構築した。「インターンシップの目的は、学生、地元企業とも初対面で相手に期待しない」と話すTICの日野敏教授は「産官と連携し、地元の学生に定着させるのが理想」と期待を寄せた。

この日開かれた設立記念フォーラム



資料５　学生へのキャリア支援

「平成１７年度第２回就職支援交流会ポスター」より

東京キャンパス大学院OB・OGとの

第2回就職支援交流会

キャリア形成支援

好評！第１回に続き、第２回就職支援交流会を開催します。東京キャンパス（ビジネス科学研究科、教育研究科カウンセリングコース）の大学院生（社会人）やその修了生が、皆さんの就職に関する質問やキャリア観についてアドバイスしてくれる交流の場です。『参加者がボランティアなので採用担当者には聞けないホンネが聞けます。』

参加者の多くが人事担当の社会人です。奮って参加してください。

日　　時：平成１７年１２月１７日（土）１３：００～１７：００
場　　所：筑波大学大学会館レストラン
対　　象：つくばキャンパスの学生はだれでも！
内　　容：
第一部　お見合い交流会（こちらで指定した席（グループ）での交流）
（休憩）
第二部　業界コース交流会（アドバイザーの所属業界別に分けた交流）
第三部　フリートーク（自由にアドバイザーとお話ください。）
申込期限：平成１７年１２月１１日（日）

申込みは、「就職情報提供システム学生の皆さんへ」からアクセス→『申請登録』をクリックする。

主催：キャリア支援室・就職課　共催：ビジネス科学研究科、教育研究科（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ専攻）
連絡先　就職課 TEL：029－853－2254　Mailto：mkubota@sec.tsukuba.ac.jp